

水と光のまちづくり推進会議資料

光のまちづくり推進委員会
事務局

第2フェーズまでの成果と第3フェーズの取組み

過去からの動き	グランドデザイン	第1フェーズ 2010年～2013年	第2フェーズ 2014年～2016年	第3フェーズ 2017年～2019年
<p>◇花と緑の懇話会設立 (2002年)</p> <p>◇光のまちづくり企画検討委員会設立 (2004年)</p> <p>・光のまちづくり基本計画策定 (2004年)</p> <p>◇光のまちづくり企画推進委員会へ改称 (2004年)</p>	光の都市軸	<p>◆中之島エリア内の橋梁や堂島川護岸のライトアップ等が拡大</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中之島エリアを中心に公共投資による光景観が民間投資を誘発 ● 日常の光として365日楽しめる風景が確立されつつある  <p>写真左から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中之島ナイトビュークルーズ ● 北浜テラス (出典:水都大阪HP) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民主導のまちづくり・賑わいづくりを推進～地域(民間)とともに育む夜間景観づくり <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">エリア別光のまちづくりガイドラインの策定 (実施中)</p>
<p>・書籍「光の景観まちづくり」発刊 (2006年)</p>  <p>・大阪光のまちづくり2020構想取り纏め (2010年)</p>	光の暦	<p>◆大阪・光の饗宴開催</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪活性化に向け、官民協働によるモデル事業の創出 ● 多様な主体による非日常の光が四季折々の魅力を形成  <p>写真左から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大阪・光の饗宴 ● 光のルネサンス (ウォールタペストリー) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1・2フェーズに整備をしたライトアップ機器が、第3フェーズに更新時期を迎える(LED) ● 更新時期を見据えた照明設備の維持・管理の仕組みづくり <p style="text-align: center;">▼</p>
<p>◇光のまちづくり推進委員会として新体制へ (2013年)</p>	光百景	<p>◆多様なニーズに即した光観光プログラムの開発と発信</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランディングプロモーション手法・ツールが整いつつある  <p>写真左から</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ミルククーポン ● 書籍「光のまちをつくる」 	<p style="text-align: center;">メンテナンスガイドラインの策定 (実施中)</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">2025年の国際博覧会(万博)の開催が大阪に決定</p>

2020年の目標

2020年、官民協働によるまちづくり元年を目標とし、「水と光の首都大阪」ブランド確立を目指す

検討項目

1. 各エリアの個性を際立たせる光のあり方や官民によるエリアコンセプトに基づく施策の検討
2. 日常と非日常の2つの視点における光景観づくりと官民の視点における活かし方(目的と効果)の検討
3. 国内外からの交流人口拡大に向けた観光地域まちづくりと都市プロモーションの活性化

光のブランドデザイン	第3フェーズ(2017年~2019年)
	民主導のまちづくり・賑わいづくり
光の都市軸 キーワード: 日常	(1)「中之島エリア・光の回廊エリア」の強化 ~水と光の首都大阪ブランドを牽引するシンボル景観の創出 (2)新たなエリアへの拡大 ~地域ブランドの向上に資する取り組みの検討 (3) エリアマネジメント等との協働推進 ~光の南北軸等における景観向上・民間開発との連携 エリア別 光のまちづくりガイドラインの策定 ▶ エリアで活動する団体等が光をどのようにとらえているかなど、光の価値や考え方、あり方について議論、もしくはヒアリングを行い、2020年には民間が活用しやすいように事例等を中心とした「エリア別 光のまちづくりガイドライン」を策定。
光の暦 キーワード: 非日常	(1)大阪・光の饗宴等と連携した各エリアの個性を活かす光プログラム充実と拡大 (2)四季を彩る光プログラムの拡充 ▶ フォトコンテスト作品をデータベース(基礎資料)として取りまとめる。
光百景 キーワード: マーケティング/ブランディング/プロモーション	(1)ICTを活用した光のまちづくりの情報一元化とインバウンドも含めた情報発信 (2)関西各都市との光によるネットワーク強化と情報発信 ▶ 関西光ネットワーク交流会議を通じた光のまちづくりの活性化 (3)水と光の景観の地域資源化とブランディングプロモーションの推進
永続的な景観形成に向けた取り組み	(1)メンテナンスを考慮した光景観ガイドラインの検討・策定 ~専門性を加味した仕組みを確立 メンテナンスガイドラインの策定 ▶ 民間主導によるモデルケース、民間も活用できるガイドラインの検討。 (2)夜間景観、デザインのあり方を検討する仕組みづくり

2020年に向けた目標

官民協働によるまちづくり元年
(大阪・水+光の都市博(仮称))水と光の首都大阪
の実現へ中之島における空間活用の官民協働事例
官の整備による光資源を活用した民間の取組みにも波及

阪神高速橋脚ライトアップ・公会堂前護岸ライトアップと中之島にぎわいの森づくり事業(中之島 LOVE CENTRAL)



錦橋と中之島フェスティバルタワー



ほたるまち前護岸・玉江橋ライトアップとほたるまち

スケジュール

- 大阪万博の50周年や東京オリンピックイヤーである2020年を一定の目途として大阪における光のまちづくりの発展を目指す。
- 2020年をこれまでに積み重ねてきた光の景観、取り組みを一同に集める「官民協働によるまちづくり元年」として位置づけ、その取り組みに向けて第3フェーズのアクションプランを検討する。

光の都市軸（常設のあかり）

光の暦（イベント）

光百景（プロモーション）

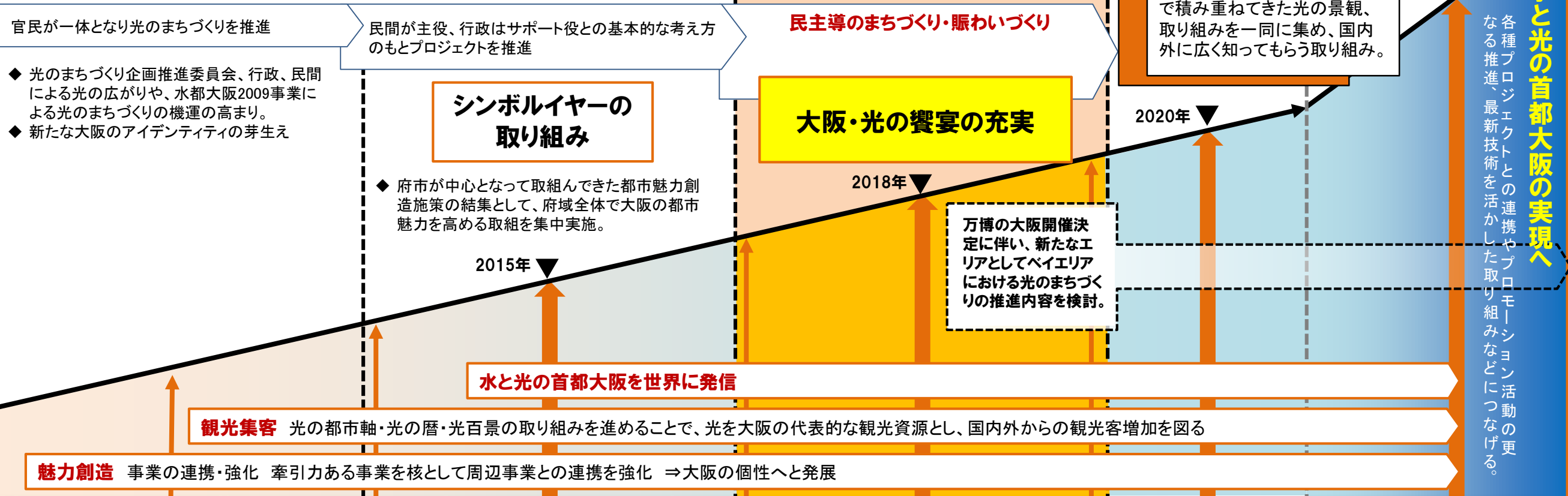
具体化に向けた取り組み

●「日常」と「非日常」2つの視点で光景観づくりを推進

魅力的なあかりの更なる蓄積意識向上

官民協働によるまちづくり元年
（大阪・水+光の都市博（仮称））

単なるイベントではなく、これまで積み重ねてきた光の景観、取り組みを一同に集め、国内外に広く知ってもらう取り組み。



【背景】水と光のまちづくり推進に関する基本方針

水と光のまちづくり 国内外へ発信する大阪らしい光のまちづくり

<p>第1フェーズ 2010年～2013年</p>	<p>第2フェーズ 2014年～2016年</p>	<p>第3フェーズ 2017年～2019年</p>	<p>2020年 大阪万博50周年・東京オリンピックイヤー</p>	<p>2025年 大阪万博（決定）IR（誘致）</p>
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--	--

エリア別光のまちづくりガイドライン・メンテナンスガイドラインの取り組み

1. エリア別光のまちづくりガイドライン

光の都市軸～新たなエリアへの拡大

(1) 目的

- 大阪エリアマネジメント活性化会議との連携図り、エリアマネジメント・まちづくり団体との対話を通じてシビックプライドを醸成。
- 光景観によるエリアの価値向上(ブランディング)、都市イメージの強化。

(2) アウトプットイメージ

- 官民協働による光のまちづくりの機運向上
- 都市の個性を打ち出す光によるシンボル風景の創出(官と民が協働した夜間景観の創出)



シンボル風景を取りまとめた「シンボル夜間景観マップ」イメージ

2. メンテナンスガイドライン

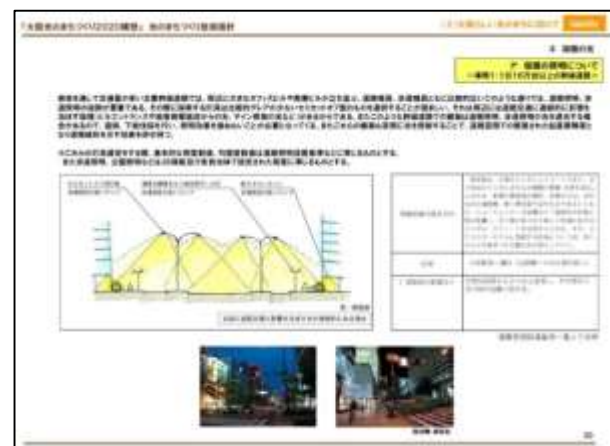
永続的な景観形成に向けた取り組み

(1) 目的

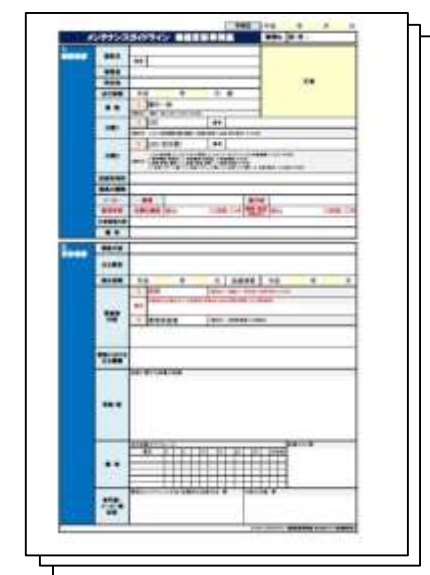
- 水と光の首都大阪の実現に向けた、これまで培ってきた魅力的な光資源の永続化。
- 既存設備の課題(リスク・トラブル)の予測

(2) アウトプットイメージ

- 中之島等をモデルケースとした機器更新事例集(メンテナンス事例集)
- 更新時期を見据えた照明設備の維持・管理の仕組みづくり



機器更新事例集イメージ



「関西・光ネットワーク交流会議」の推進

〔概要〕 ● 関西・光ネットワーク交流会議は、関西圏域で光を活用したまちづくり、賑わいづくりに取り組む、公民関係者が集い、相互の取り組み状況について共有するとともに、ネットワークのあり方等について議論を行っている。



会議風景



光のルネサンス視察



光のルネサンス視察

関西・光ネットワーク交流会議 ◇日 時：平成30年12月20日（木） ◇場 所：大阪市役所およびOSAKA光のルネサンス視察

<p>大阪</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 御堂筋イルミネーションでは、関係者と調整の上、「流れる光」を初めて実施し、「光の川となった御堂筋」に。 ● 大阪市中心公会堂開館100周年を祝う、光のアートフェスティバル「ウォールタペストリー」を15分～20分毎に開催。 ● 「光ミルククーポン」は、飲食店情報サイト「ぐるなび」とのコラボにより、提供店舗も増加。
<p>京都</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光地の混雑緩和に向け、「季節」「時間」「エリア」の分散化を図るため施策を展開。 ● 2018年6月「京都夜観光」サイトを開設。「季節の夜観光」「一年中楽しめる夜観光」「京都のバー」などを紹介。 ● 二条城は京都市が管理し、季節毎にライトアップを展開。文化財の保存のみではなく活用の面でも評価。
<p>奈良 (なら燈花会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年8月に実施、今年度で20回目。ボランティア中心。昨年はキンビールの「47都道府県の一番搾り」で奈良は燈花会が選ばれた。 ● 来場者は奈良県内からが50%。他府県からの比率を上げ、滞在型観光へつなげたい。 ● 東京方面からの修学旅行生に体験燈花会を実施。毎年10～15校が体験。
<p>関西観光本部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 2017年4月設立。関西全域へのインバウンド誘客を推進。インバウンド向け冊子を5万部準備。 ● ポータルサイト「The KANSAI Guide(仮称)」を2019年3月頃に整備予定。 <p>関西全域の光イベント情報発信を検討中のため、関西・光ネットワークを通じ各エリアの素材提供等による連携に向けて、調整予定。</p>
<p>大阪観光局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 関西国際空港での外国人動向調査を実施。大阪訪問初めてが7割。台湾・香港は6回以上訪問のリピーターが1割。 <p>日本での宿泊は約10日間(アジア系：大阪での宿泊がうち5日間程度／欧州系：大阪での宿泊がうち3日間程度)</p>